

腎臓内科 卒後臨床研修プログラム（内科（必修／選択））

I 研修プログラムの目的及び特徴

主要な腎疾患の診療を経験することにより、一般内科診療を行う上に必要な腎臓病の基本的知識、技能、態度を習得する。本研修では、特に腎疾患の多様性を認識し、解剖・病理・薬理等の基礎的知識がいかに関診療に必要か理解できるように指導を行う。

II 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者： 浅沼 克彦（教授）

III 研修指導医

研修担当責任者： 浅沼 克彦（教授）

指導 医：

本田 大介（診療講師）

若林 華恵（助教）

吉岡 友基（特任助教）

林 あゆみ（総合医療教育研修センター）

IV 研修プログラムの管理・運営

指導医は、研修内容と達成度を評価し、経験目標を達成できるように指導する。また、適宜研修状況を研修委員会に報告する。

V 募集定員

1名（2～7ヵ月間）

VI 教育課程

基本的目標

腎臓疾患患者の適切な診療を行うために、腎臓関連疾患の病態・診断・予後に関する基礎を習得する。そして、診療をおこなう上での医療全般にわたる基礎を確立する。

具体的目標

1. 腎・泌尿器系臓器の解剖と機能を理解する
2. 急性腎障害、慢性腎不全、ネフローゼ症候群及びショックの病態生理を理解する。
3. 腎疾患の主要症候（浮腫、貧血、発熱、蛋白尿、血尿、排尿障害、尿量異常）を理解する。
4. 全身所見（皮膚所見、貧血、浮腫）と腹部の診察（視診、聴診、触診、打診）を行うことができる。
5. 一般尿検査を理解する。
6. 腎機能検査を理解し、その結果を説明できる。

7. 主な血清電解質（ナトリウム、カリウム、カルシウム）濃度を評価できる。
8. 免疫血清学的検査（抗核抗体、免疫電気泳動など）を理解しその結果を説明できる。
9. 動脈血液ガス分析結果を理解し、酸・塩基平衡異常を評価できる。
10. 腹部超音波を理解し、腎泌尿器系臓器の解剖学的異常を指摘できる。
11. 排泄性腎盂造影を理解する。
12. 腎・泌尿器系X線CT検査を理解する。
13. 腎生検を理解し、基本的な組織変化について説明できる。
14. 基本的治療手技（導尿、腹腔穿刺）を理解し、施行・管理できる。
15. 高カロリー輸液をふくむ輸液療法を理解し、病態にあった輸液の選択ができる。
16. 腎疾患患者に適切な療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備など）ができる。
17. 腎疾患の薬物療法（利尿剤、降圧剤、抗血小板剤、ステロイド剤、免疫抑制剤）を理解し、処方できる。
18. 急性腎障害、慢性腎不全、ネフローゼ症候群の治療を理解する。
19. 血液浄化法の概要を理解し、維持透析の適応条件をあげることができる。
20. 腎機能に応じた薬物投与量決定の原則について説明できる。
21. 血液透析におけるブラッドアクセス手術や腹膜透析時のカテーテル挿入術を理解する。

経験したほうがよい主要症候・疾患

1. 全身倦怠感
2. 不眠
3. 体重増加・減少
4. 浮腫
5. 排尿異常
6. 発熱
7. 嘔気、嘔吐、脱水症
8. 関節痛
9. 腰痛・背部痛
10. 腎不全
 - 急性腎障害
 - 慢性腎不全
 - 維持血液透析
11. 原発性糸球体疾患
 - 原発性糸球体腎炎
 - 急性糸球体腎炎症候群
 - 慢性糸球体腎炎症候群
 - ネフローゼ症候群
12. 続発性糸球体疾患腎炎
 - 糖尿病性腎症
 - 腎硬化症

膠原病・血管炎による腎症

13. 尿細管・間質性障害

薬剤性腎障害

14. 泌尿器科的腎・尿路疾患

尿路結石、尿路感染症

VII 週間スケジュール

曜日	午前	午後
月曜日	外来、病棟、透析室	病棟、透析室
火曜日	病棟、透析室、腎生検見学	回診、臨床カンファレンス、抄読会 入退院報告
水曜日	病棟、透析室	病棟、透析室
木曜日	病棟、透析室	透析カンファレンス
金曜日	外来、病棟、透析室、腎生検見学	病棟、透析室、病理カンファレンス

VIII 評価方法

1. 研修医の評価

研修医は研修手帳により自己の研修内容を記録、評価し、病歴の要約を作成する。指導医はローテーションごとに研修の全期間を通じて研修医の観察・指導を行い、目標達成状況を研修手帳、評価表から把握し形成的評価を行う。評価は指導医ばかりでなく同僚研修医、看護師等チーム医療スタッフ等によっても行われる。

2. 指導医の評価

研修終了後、研修医による指導医、診療科（部）の評価が行われ、その結果は指導医、診療科（部）へフィードバックされる。